大宮地域に広い圃場が・・・

一昨年度から工事が行われていた鉄穴谷地区の圃場整備は昨年度完成し、あらたに広い圃場に田植えが行われた。いくつもの枚数の田を１つにまとめ、大型の農業機械で耕作できるようになった。広い圃場に今年初めて苗が植えられ、清々しい春風が圃場に吹き抜けている。

【鉄穴谷の圃場整備】

【宝谷：大原地区の圃場整備】

また、大原地区の圃場整備も行われ、県道より高い圃場は２つにまとめられ、今年初めて田植えが行われた。県道より下の圃場は現在工事が行われている。

なお、今後は折渡地域の圃場整備が予定されている。元折渡から中粟谷、下粟谷が予定の区域である。これが完成すると大型農業機械でおいしいお米ができることだろう。

新しい役員が決定

本年度は各自治会及びまちづくり協議会の役員改選が行われる年度でした。

【自治会長】
折渡：粟田英機（留任）
印賀：河村達也（新任）
宝谷：佐藤俊作（留任）
菅沢：小澤美知弥（留任）

【まちづくり協議会】
会長代行兼副会長：河村達也
監　　事：佐藤睦美・山脇良円
集落支援員：田辺次良・松本美夏・柴田浩良
事務長：加納真由美

編集・発行　大宮まちづくり協議会

≪お問合せ≫

大宮地域振興センター
〒689-5531
鳥取県日野郡日南町印賀 1516
TEL・FAX (0859)87-0911
Mail：skn0400@town.nichinan.tottori.jp
satoyamaoomiya@sea.chukai.ne.jp
blog：http://blog.zige.jp/satoyamaoomiya/
“じげブロ”よりお入りください

編　集　後　記

◆田植えが終わった。現在は、機械化が進み１町歩の田んぼでも１時間もかからない。アッという間に植えてしまう。昨年は、米価が下落し、コメ農家にとっては大打撃であった。今年は、豊作で米価も高くなることを期待する。◆大宮まちづくり協議会の５か年計画はみなさんのご協力で完成した。今後はまちづくり協議会の運営も考えながら、地道にやれることからやろうではないか。一歩一歩着実に前進あるのみ、ご協力をお願いする。（青）

♪「この～木 何の木 気になる木～」♪　印賀方面から菅沢方面に向かう途中の「大原地区」の印賀川沿いに写真のような大きな木を見ることができる。遠くから見るとあんなところに何の木だろうか？と思ってしまう。　近づいてみると、藤の花ではないか。大きな木の枝に弦を巻き、見事な一本の藤の大木に見えてしまう。今、藤の花は日南町内各地で満開を迎え、いたるところで見ることができる。巻き付かれた木にとっては、厄介なことだが・・・。ここまで見事な藤を見ることは珍しい。

全国“金賞”獲得！！　米風土鳥取（まいふうど）のお米

米づくりの専業農家になって１１年。米風土鳥取の藤原恵司さん（鉄穴谷）たち３人は、折渡地区を中心に米作りを営んでいる。令和３年産第２３回国際米食味コンテストにて鳥取県初の総合部門（全国４０名）に入り、上位（１３位まで）の金賞を受賞した。

そこで、今シーズンの米作りについてお話を伺った。

「全国米コンテストの存在を知り、どうせやるなら隣町の「仁多」に追いつきたい、勝ちたいと思った。隣町「仁多」は西の魚沼と呼ばれ、名前が知れ渡り全国ブランドだ。しかし、本町の米は品質は変わらないと思うのだが全く無名である。」

「ある時 NHK で仁多の稲作が放映されているのを偶然見た。春、田んぼを女性たちが素掘りの水路を鍬できれいにしている。水を充てると、冬眠しているドジョウがはねるというシーンだった。農薬に弱いドジョウがいるということは、農薬が入ってないことになる。仁多に負けていると実感した瞬間だった。その日以来スイッチが入った。仁多米にコンテストに勝つと宣言した。」

【鳥大学生ボランティアと水路補修】

【田植え作業中の藤原さん】

「実験が始まった。総合部門で２０年の常連である仁多と一度も入賞がない鳥取県、つまり鳥取県内に稲作を知っている指導者がいないということだ。ならば県外へ行くしかない。受賞者を探しながら数年間もがいた。仁多だんだん近づいていていくのが実感できたが・・・。」

「表彰台までには、時間がかかった。近年は江府のグループになかなか歯が立たず数年間、鳥取県２位というポジションだった。やっと令和３年産第２３回で国際米食味コンテストにて鳥取県初の総合部門（全国４０名）に入り、その中で上位（１３位）の金賞を受賞できた。何より目標の仁多に勝ったことが飛びあがるほどうれしかった。この年の仁多は、１７位だった。」

【中村日南町長に表彰報告（右：藤原さん）】

「株式会社トーヨーライス主催の世界一米コンテスト」の話をもらい、米１俵１０万円で買い取られ、米風土鳥取、過去最高値のコメ販売となった。本年度も昨年度を超えられるよう頑張りたい。「今シーズンより伯太町小竹より小原さんに働きに来てもらっている。お母さんは山上出身だそうだ。今シーズンも力を合わせて金賞受賞だ。」

【田植えに励む藤原さん】

米づくりの意気込みを語ってくれた藤原恵司さん。チャレンジに拍手を送りたい。

トマトづくりで大宮に移住

本年４月、旧大宮小学校の下の「下矢谷（シモヤーダン）に、家族が移住して来られた。印賀でトマトづくりをはじめられた　平岡さんご一家　である。平岡竜也さん（５０歳）、奥さん、娘さん（中３）の３人家族である。日南町には１４年前、第１期農業研修生として来町。研修を積み、その後は、日南町丸山（日野上地域）で就農された。

日南町に来られる前には、福岡県での就農を目指しておられたが、土地入手が難しく断念されたそうだ。その後、情報収集され、日南町が募集していた農業研修生制度に応募され、めでたく１期生となられた。研修後は、日南トマトの栽培に挑戦し、はや１１年だそうだ。

「にちなんトマト（ブランド名）」の栽培農家として、大活躍の平岡さんである。本年度から、新しく日南町丸山の圃場から印賀の圃場に移り、ハウス１８棟を建設して、６，６００本のトマト苗を植えられ、栽培を開始された。

今後は、日南町で後進の目標となるような「認定農業士」を目指して行きたいと抱負を語られた。

上隣りには、「にちなんトマト」を栽培しておられる「ファームイング」と隣接しており、「日南トマト」の一大産地となった。7月１３日には、おいしい「にちなんトマト」の出発式が行われた。今年もおいしいトマトがたくさん実ることだろう。